

Title	<記事>2.臨海実習
Author(s)	
Citation	瀬戸臨海実験所年報 = Annual report of the Seto Marine Biological Laboratory (2000), 13: 2-3
Issue Date	2000-12-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/178982
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

1. 概 要

□平成11年度

◎職員等の移動

- ・ 辻英祐事務官が農学部第一経理掛へ転出、飯間昭彦事務官が医学部経理掛から着任(平成12年4月1日)。
- ・ 栗原晴子氏が博士後期課程に入学(平成12年4月1日)。
- ・ 椿昭太氏が卒論生として配属(平成12年4月1日)。

◎行事・来訪者

- ・ 国立大学臨海臨湖実験所長会議(春季)(於お茶の水女子大学国立教育会館、東京)、白山義久教授出席(平成11年5月10日－5月11日)。
- ・ 招聘外国人学者として Genzano, G. N.氏(国立ラプラタ大、アルゼンチン)来日(6月8日－9月8日)。
- ・ 公開臨海実習講師として Hope, W .D.氏 (スミソニアン博、米国)来日(10月2日－10月9日)。
- ・ 招聘外国人学者として Susetiono 氏(インドネシア科学院、インドネシア)来日(10月2日－10月31日)。
- ・ 日本学術振興会特定国派遣研究者として、久保田信助教授がイタリアへ外国出張(10月11日－平成12年3月28日)。
- ・ 国立大学臨海臨湖実験所公開臨海実習検討会(於熊本大学臨海実験所、熊本)、田名瀬英朋助手出席(11月8日－11月10日)。
- ・ 防火訓練(12月18日)。
- ・ 瀬戸臨海実験所年報12巻、Publications of the Seto Marine Biological Laboratory 第39巻1/2号発行(12月25日)。
- ・ 水族館休館(平成11年12月29日－平成12年1月3日)。
- ・ 水族館開館(1月4日)。
- ・ 招聘外国人学者として Othman B. H. R.氏(マレーシア国民大資源科学、マレーシア)来日(2月14日－3月27日)。

2. 臨 海 実 習

□平成11年度

例年の通り、京都大学理学部をはじめ諸大学の臨海実習が下記の通り実施された。

(大学・実習科目・実習期間・受講学生数)

京都大学理学部生物系臨海実習 I	7/25-8/1	延	96人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 I	8/23-8/30	延	104人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 II*	4/1-4/7	延	56人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 III*	3/20-3/25	延	36人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	7/25-8/1	延	24人・日
京都大学理学部生物系臨海実習 IV	8/23-8/30	延	16人・日
京都大学院人間環境学研究科海洋化学実習	8/18-8/21	延	104人・日
京都大学院人間環境学研究科生物学臨海実習	2/22-2/31	延	72人・日
京都大学理学部瀬戸臨海実験所公開臨海実習	10/3-10/9	延	28人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(植物)	4/16-4/20	延	80人・日
大阪千代田短期大学磯観察実習	5/12-5/14	延	51人・日
奈良教育大学教育学部野外実習A-II(臨海実習)	5/17-5/22	延	102人・日

奈良女子大学理学部生物科学臨海実習	5/31-6/5	延	192人・日
岐阜大学教育学部臨海実習法及び実習	6/5-6/10	延	78人・日
和歌山大学教育学部生物学臨海実習(動物)	6/14-6/18	延	65人・日
大阪市立大学理学部臨海実習	6/30-7/6	延	105人・日
大阪教育大学教育学部教養成課程臨海実習	7/20-7/25	延	114人・日
滋賀県立大学環境科学部海洋観測実習	8/2-8/5	延	80人・日
大阪工業大学情報処理科海洋生物の観察	8/7-8/9	延	36人・日
大阪大学理学部生物学臨海実習	8/7-8/12	延	120人・日
広島女学院大学生生活科学部海洋観測実習	8/18-8/21	延	16人・日
滋賀大学教育学部臨海実習	8/30-9/3	延	135人・日
大阪千代田短期大学幼児教育科臨海実習	2/17-2/19	延	18人・日
龍谷大学経営学部臨海実習	3/5-3/8	延	44人・日

* 前年度末に実施

(計)	京都大学	8件	延	508人・日
	公開臨海実習	1件	延	28人・日
	他大学国立	9件	延	966人・日
	公立	1件	延	105人・日
	私立	5件	延	165人・日
(総計)		24件	延	1772人・日

○公開臨海実習は「無脊椎動物系統分類学」と題して学部学生を対象に実施し、東京大学・新潟大学・高知大学・早稲田大学からの学生4名が受講した。

3. 研究会・来訪研究者

下記の研究会が開催された。なお、瀬戸海洋生物学セミナーは、1999年度より新シリーズとして、新たな番号付けをすることとなった。

○「第1回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Jon Norenburg (Department of Invertebrate Zoology, National Museum of Natural History, Smithsonian Institution) "Phylogeny within the Phylum Nemertea". (7月13日)

○「第2回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Gabriel N. Genzano (Universidad Nacional de La Plata) "Hydroids researches in the Argentine continental shelf" (7月21日)

○「第3回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：Serguei Kiyashko (Center for Ecological Research, Kyoto University) "Feeding relationships among marine invertebrates studied using natural stable isotope markers" (8月3日)

○「第4回瀬戸海洋生物学セミナー」

話題提供：小田 広樹 (科学技術振興事業団, ERATO, 月田細胞軸プロジェクト) "脊索動物とそれ以外の後生動物の細胞レベルでの違いを考える".

高橋 淑子 (奈良先端大) "からだの繰り返し構造：体節ワールドへのいざない".

加藤 和人 (生命誌研究館) "社会の中の科学研究 開かれた研究とは・生命誌研究館の試み". (9月8日)